

第1回 2級キャリア・コンサルティング技能検定に合格された方に受検の動機や試験に臨むにあたって取り組まれたことなどを文章でお寄せいただきました。一部を抜粋して掲載させていただきます。(その他にも多くの方からご寄稿いただきました。誠にありがとうございました。)

網野 真一 様 (北海道)

私は現在、札幌市内の私立大学で学生相談室を分担しています。10年ほど前に初めて担当して以来、ほとんど手探りの状態から、産業カウンセラー資格にも出会いました。また、進路関係の相談が多く、産業カウンセラー協会のキャリア・コンサルタントの勉強をさせてもらったことが、技能検定受検につながっています。相談室といっても私は生物工学科所属の理系の教員で、今回、畑違いからの挑戦で合格させていただいたことに自分でも驚くと同時に自信にもなりました。

検定の学科試験は特例講習による免除でしたが、実技試験の論述ではキャリア理論や各種制度の知識を要する問題も想定していました。知識は日常の相談を含めて必要と思います。実際の解答では、クライアントのパーソナリティや価値観には深入りせず、より客観性が高いと考えられることを中心に職務理解やコミュニケーションの課題を具体的に展開したつもりです。実技のロールプレイは、これまでの同様の試験と比べても全く自信のないものでした。試験という場面ではやはり緊張し、関係構築もぎこちなくなりました。問題への対処では、何らかの方策を示さなければとの気持ちが強すぎ、傾聴も不十分で、提案にもまとまりが欠けていました。結果として各観点のミニマムという怪我の功名だったのでしょうか。

今回の受検は日頃の相談を振り返る絶好の機会でした。これからも真に学生のキャリアに触れるかかわりができればと意を新たにしています。

木村 亨 様 (山口県)

私は、公共職業訓練に携わって 30 数年となります。指導員の時には、訓練生の生活指導から就職支援まで担任業務を行ってきました。当時は、まだ、明確なキャリア支援の概念もなく、それなりに経験から相談に応じていました。そして、管理する立場となり、指導員の方々や訓練受講生全体に対するガイダンスを担当するようになりました。こうした中、キャリア支援の方法論を知って、2007 年に日本キャリア開発協会の「CDA」の資格を得ました。

各種団体があることから、一つにまとめればいいと思っておりましたところ、今回の技能検定制度となり受検することにしました。受検となると CDA を受検したときのことが思い出され、面接では緊張しました。やはり何度受けても受検とは嫌なものです。

受検にあたってはロールプレイングの練習を友人と行いました。この時、心に留めたことは、クライアントに対して「20 分で完結するように起承転結を決める」「抱えている課題を素早く把握する」「自己理解を図る」「情報の深さを探る」「目標設定から具体的な展開へ進んで結論を見いだす」ということでした。これに応じた練習を繰り返しました。最後に、口頭試問ですが、これは、自分の日頃からの思いとロールプレイングの内容をその場でマッチングさせるようにしました。この点では練習よりも日頃の考え方をしっかり持つことだと思います。

平田 宗一 様 (埼玉県)

【受検の動機】

私の場合は、雇用・能力開発機構主催「第 8 回キャリア・コンサルタント養成講座」埼玉センターの受講生全員で立ち上げた、キャリア・コンサルティング活動を目的とする NPO 法人「特定非営利活動法人 日本アクティブキャリア開発」に所属しており毎月定例研究会を行っていますが、昨年 10 月からは常時出席

する理事の半数以上が技能試験を受検する意思があるとのことで、月3~4回集まって受検対策を行いました。

【受検にあたって】

筆記試験は全員特例講習受講資格がありましたのでこの受講によりパスしました。実技試験対策は、私たちの先生である雇用・能力開発機構埼玉センターの担当の方に来ていただいたり、他の先生にも応援いただき、論述、面接ロールプレイを重ねました。

(実技試験で意識したこと)

論述・・・相手の言っていることから外れないように、つまり自分の得意とする方向に持っていかないよう、相手の話を傾聴しそれに沿って気づきを待つことを心がけた解答をしました。

面接・・・態度、言葉遣いは、相手をかけがえのない存在、と意識した丁寧な対応を心がけ、特に感情が出たときはそれに共感した対応を、リードは極力抑え情報提供を心がけました。